

ヒメオオクワガタの長生き記録

足立義弘

1983年9月11日、扇ノ山畑ガ平で採集したヒメオオクワガタ *Nipponodorcus montivagus* 1♂が、1985年8月10日まで、1年11カ月生存したので、飼育による長生き記録として報告しておく。

飼育には週1回程度、果実の小片や蜂蜜の薄めたものを与えていたほかは、容器内が乾燥しないように気をつけていた。また夏季の気温の高い時期には、風通しのよい涼しい場所に容器をおくようにしていた。

ヒメオオクワガタの生存記録については、滝沢 清(1986)による1984年9月12日から1986年7月31日まで生きた記録が知られている。筆者の記録は、かろうじてこれを上回っている。触角の一部と、右前肢と中肢の跗節が欠けてしまったが、二冬を越し、あしかけ3年生きぬいた。

参考文献

滝沢 清(1986) 2年近く生き続けたヒメオオクワガタ。月刊むし 189:37.

ヒメオオクワガタを灯火で採集

足立義弘

ヒメオオクワガタ *Nipponodorcus montivagus* は、他のクワガタムシと同様に、灯火に飛来することが知られているが、筆者も扇ノ山で、灯火で本種を採集しているので報告しておく。

《採集データ》 1986年8月9日、扇ノ山畑ガ平、1♂1♀

畑ガ平は標高約1,000mの広い畑地で、高原野菜を作っている。灯火には、その畑の中から周りのブナ林へ向けて、白色、ブルー、ブラックライトの3種の蛍光灯を使用した。気温は低く、トレーナかヤッケを必要としたが、ヒメオオクワガタ以外にアカアシクワガタとミヤマクワガタ(いずれも雌)が数頭飛来した。

扇ノ山では、小ヅッコの周辺で、1984年と1985年の6月下旬から8月下旬にかけて数回ずつ灯火採集を行っているが、ヒメオオクワガタが飛来したのは今回が初めてであった。

和田山町でチビクワガタを採集

上田尚志

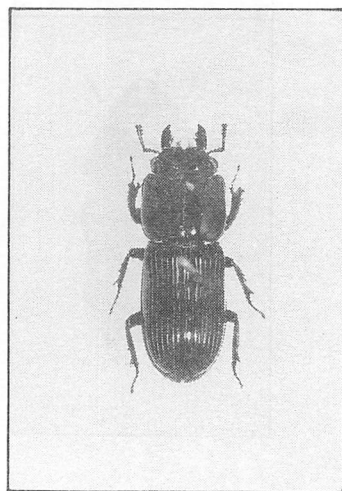
但馬におけるチビクワガタ *Figulus binodulus* Waterhouse の記録は少なく、豊岡市での1例を知るのみである。筆者は、1985年と1987年に、朝来郡和田山町にて本種を複数個体採集しているので報告しておく。

1985-IV-27, 1 ex.

1985-VII, 1 ex.

1987-I-9, 5 exs.

採集地は、人通りのほとんどない川沿いのサクラ並木。1985年の1個体は、サクラの幹の地上50cm付近に静止していたもの、他の1個体は、同所で得たサクラの朽ち木より、後にはい出してきたものである。1987年の5個体は、草に埋もれた直径7~8cmのサクラの朽ち木より、同時に得たものである。この朽ち木は、樹皮を残し内部は黒く腐朽していた。5個体中の1個体は黒色、他の4個体は赤褐色であった。最も赤褐色味を帯びた個体は、小型で発育が悪いように思われた。



参考文献

高橋寿郎 (1982) 兵庫県のクワガタムシ。てんとうむし。No.8:141-152.

高橋 匡 (1981) 但馬地方昆虫目録予報第6報。IRATSUME 5:59-67.